

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」

町田税務署長賞

『私と税』

町田市立真光寺中学校 3学年 刈田 葵愛

私は、夏休み期間中に三回目の新型コロナワクチンの接種を受けました。今回は、私の住んでいる町田市の総合体育館という会場での接種でしたが、会場のセッティングをはじめ、何人ものスタッフの流れる様な動きに驚かされました。書類確認から始まり、医師による健康確認、看護師による接種、副反応を確認する為の待機場所まで案内してくれる人を含め、何人ものスタッフが関わっていましたが、スムーズに接種をする私を誘導し、あっという間に終わってしまいました。個人情報話が話されたり実際接種する場所は、パーテーションに区切られていたので、安心感もありました。この会場だけでなく、ワクチン接種の案内が郵送で送られ、母がスマホを使って市の専用サイトに接続して予約をとれるようにする、この一連のシステムは、どの様につくられたのか疑問に思いました。すると、今回税を学ぶ上でこれらが、国と地方自治体の連携によって、又、その税金によってつくられたことを知りました。私達・国民・市民の健康を守る為には国と、地方自治体の多くの税金が使われているのです。

また、私個人の健康のことを考えても、実は医療と税と大きく関わっていたのです。

私は年少から小学生低学年まで小児ぜんそくの治療を受けていました。当時、発作が起きると、夜、咳が止まらない、食べたものも吐いてしまう、眠れないなどの症状が出て、週に何度も小児科に行き、薬をもらい、吸入をしてもらうという時期があったそうです。特にひどく栄養もとれなくなった時は、点滴もしたそうです。この時、母は「ぜんそくで我が子を失ってしまう」と思ったそうです。でも、成長と共に次第に症状はなくなり、今は完治をし、薬も飲んでいません。しかし、当時これだけ病院に通い、薬をもらっていたら多くのお金がかかっただろうと思いましたが、母に聞くと、幼稚園の時は全くなからず小学校に入学してから一回の診察に二百円を払うだけだったと聞きました。私が住んでいる町田市のホームページを確認したところ、「乳幼児・義務教育就学児医療費助成制度」というものがあり、乳幼児及び小中学生が医療機関で受診した医療費のうち保険診療の自己負担分を助成するというものです。

（乳幼児は無料、小中学生は一回二百円のみ）助成されたお金は税金でまかなわれます。税金により子供達の健康が守られているのです。

私が治療を受けていた頃、税金を納めてくれた人のお陰で私の命は助かったと思うと、ありがたいと思いました。将来私が仕事をし、納税することになったら、そのお金が誰かの命を守ることに使われるかもしれないと思うと感慨深いです。

同じ国、同じ地域に住む人同士助け合おうのが社会であり、それを支えるのが税金だということが分かりました。